

自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2006. 3. 26 No. 8

北海道ボランティア・レンジャー協議会

シュートと芽

いろいろな木の冬芽がふっくらとしてきました。この冬芽は休眠していることが多いので、休眠芽とか越冬芽とも言われていますが、春の気配とともに動きだしてきました。

この芽が花になるか葉になるかによって3つの呼び名に分かれます。

花芽……中に花のつぼみがあり花となる芽で、やや太めでずんぐりしているものが多い。

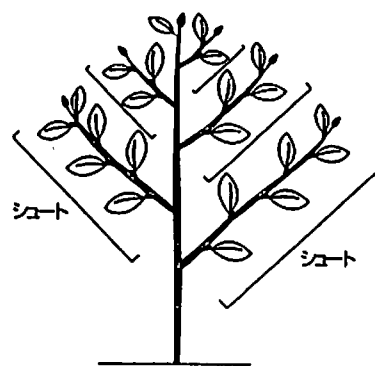
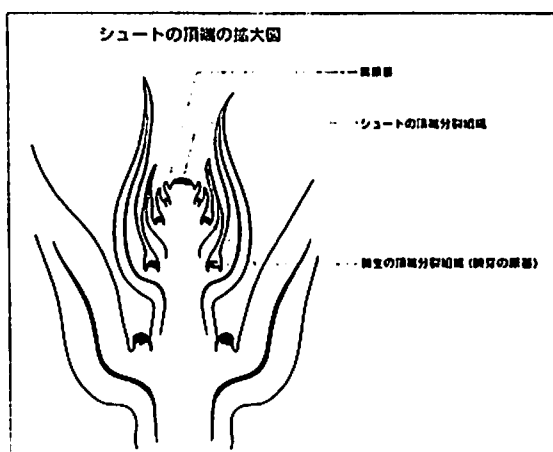
葉芽……花芽より細長いのが多く、葉と茎ができる芽。

混芽……芽が展開したとき葉と花をつける芽。

これらの芽（花芽を除く）は成長していくと葉となりますが、同時に茎もできてきますので、これらをセットとしてシュートといいます。シュートという言葉はあまり聞き慣れない言葉ですが、植物の形を表すための重要な言葉です。

下図に示されているように植物の芽が成長するときには、頂端分裂組織のまわりに「葉原基」と呼ばれる葉のもとになる突起が次々にでてきます。葉が展開するとともに葉がそのまわりについている部分が次々と伸びてきて茎になります。これがシュートです。

茎と葉は別々の器官とされていますが、茎には必ず葉をとまいます。ですから茎と葉はセットになって成長するので、これをまとめてシュートというのです。



4月の観察会は?

今年もふれあい交流館の前の池にはエゾアカガエルが沢山集まることでしょう。ミズバショウやフクジュソウも咲いていることでしょう。葉の出る前の森は見通しがよく、野鳥の姿ははっきり捉えることができます。野幌の森の春を楽しみましょう。

春の花を見つけよう (テーマ 早春の花 野鳥観察)

4月27日(木) 10:00~12:30 大沢口交流館集合

ハルニレの花芽

黒ずんだハルニレの芽をよく見ると、真冬の時期と比べると、ずいぶんと膨らみを増しています。森の雪が解けるのを待ち構え、地味ではありますが花が咲きだします。この花は前年枝の葉腋に赤褐色の小さな花が球状に集まって葉よりも先に開花します。目立たない花ですが、ルーペなどで拡大して見ると結構美しい花です。

花が咲いたあと種が落ちているのを見かけますが、繁殖力がおう盛で、その年の秋にはもう苗木になります。ニレの木の近くに畑をつくるなど言われているほどです。

このハルニレについては北欧の神話にも登場しますし、アイヌのユーカラにも登場します。双方とも女神として扱われています。

創成されたばかりの地に、最初に降ろされたのはハルニレとイチイとヨモギであったが、ことにハルニレ姫が絶世の美女で、天上の神々はいつもうっとり雲の上から眺めていた。

なかでも雷神は身をのりだして見とれていると、他の神が後ろから押したので、思わず足をすべらし、姫の上に落ちてしまった。このため、この姫は身ごもり、男の子を産んだ。ところが、ハルニレの女神には風当たりが強く、とても子育てができないので、自分の皮を剥いで着物を作り、剣を抜くと火の燃える刀を子供に授け、天上の神のもとで育ててもらった。

成人してから再びアイヌモシリへもどり、人間生活の基礎を築いた。文化神アイヌラックルである。

アイヌ植物誌（草風館）より

北欧の神話は、天地を創造した首神オーディンが北欧ニレの木に魂を与え、エンブラと名付けました。これが人類最初の女性であるそうです。このエンブラがその後、エルムに変わったといい、ハルニレをエルムと呼ぶのはここからきています。北欧の神々は、美しいエルムに遠慮して、この木にはカミナリを落とさないという伝説を生んでいます。

春先、このハルニレの花をルーペなどで拡大して、じっくり観察してはどうでしょうか。

春の日差し

3月は春に向う胎動期です。西高東低の冬型の気圧配置が衰え、移動性高気圧の通る回数が多くなってきます。移動性高気圧は1年のうちで、3月と4月、10月に多いと言われていて、大体4日に1回ぐらいの割合で通過します。

移動性高気圧のあとには気圧の谷の接近で、低気圧を伴うので天気が悪くなります。好天と悪天が交互に現れ、周期的な天気変化が目立ってきます。時には低気圧が台風並みに発達して大荒れになることもあります。北海道を通過した20～21日の吹雪模様の天気は典型的な現象です。

3月はまた、気温の上昇にともない太陽の光が急に輝きを増す季節でもあります。私たちは春の気配を光の変化で感じ取っています。札幌では3月の初旬と下旬では昼間の時間が30分以上延びているので、こんなところからも春の気配を感じています。そして、昼間の時間が延びていることは、雪解けとも関係してきます。

雪を解かす熱源は、太陽の光、暖かい空気や雨、空気中の水蒸気が雪面に凝結するときに放出する熱（潜熱）などがあります。しかし、融雪期には太陽から雪面に入射する日射量の半分は反射されてしまったり、雪が解ける際に雪面は熱を失ったりします。そのために、春のいろいろな気象条件が複合的に作用して、雪の解ける早さや量が変わってくるのです。